『でっちあげ！？』

労働者委員　海蔵伸一

今年も、国内のみならず世界中で異常気象による自然災害が起きています。とりわけ、ネパール大規模土石流の原因に驚愕しました。まだ分析中とのことですが、いずれの説にも共通するのは「氷河崩壊」です。ヒマラヤでの気温上昇は知られていますが、岩と岩をつなぎとめている永久凍土、つまり接着剤となっている氷が解けたということでしょうか。

地質学によれば、地球は約258万年前に始まった第4紀の氷河期が今も続いています。大陸に大きな氷床が広がる「氷期」と比較的温暖な「間氷期」を10万年周期で繰り返し、今は1万1700年前ごろから続く「間氷期」だそうです。

米国トランプ大統領は国連で「地球温暖化問題はでっちあげ」と演説しました。おそらくは、「地球温暖化を人類の営みのせいにするのはでっちあげ」と言いたいのでしょうか。確かに、地球は10万年という気の遠くなるようなサイクルで気候変動を繰り返しています。10万年前に人類が二酸化炭素を大量に排出していたはずもなく、この10万年サイクルの気候変動は人類の営みとは別次元で起きていると推測できます。

しかしながら、化石燃料を大量消費する経済活動が広がった産業革命以降のわずか百数十年で地球に与えた影響は、人知を超えているのではないでしょうか。スウェーデンのヨハン・ロックストローム博士によって提唱された「プラネタリー・バウンダリー」によれば、地球の限界を表す9項目の指標のうち、6項目で限界を超えたと示されています。これら指標は密接不可分につながっており、ドミノ倒しのような連鎖が起きている可能性も指摘されています。

地球温暖化は果たして「でっちあげ」かどうか、その結果を待つ余裕が人類には残されているのでしょうか。温暖化対策は、世界全体で取り組まなければなりませんが、そこには個人レベルの取り組みの積み重ねも必要です。ですが、こういった地味な努力は兎角長続きしません。個人レベルでは飽きてしまいます。ぜひ、国には数値目標だけでなく、個人レベルが飽きずに続けられる対策や施策を提唱してもらいたいものです。